

イカナゴ資源管理推進調査

倉田恵吉・山田大貴・勝田孝司¹⁾

1)津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理を行ってきたが、近年資源減少が著しく、平成28年から解禁見合わせが続いている。本調査は、資源状況を把握し、自ら資源管理に取り組む漁業者に情報を提供することを目的として実施した。

方法

1 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山海域(神島の南東約10km)及びその周辺海域において、親魚となる夏眠魚をから釣りにより定量的に採集し、分布密度、魚体サイズ、肥満度、年齢組成等を調査した(実施時期:5, 6, 7, 8, 10月)。

2 イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定のための資料とした(実施時期:1, 2月)。

結果および考察

1 夏眠魚調査

2018年5月の調査の採集尾数は0.54尾/kmと2017年の2尾/kmの結果より少なく(図1)、その後も6月0.54尾/km(2017年0尾/km)、7月0尾/km(2017年0尾/km)、8月0尾/km(2017年—、2016年2尾/km)、10月0尾/km(2017年—、2016年2尾/km)と採集尾数は低調であった。

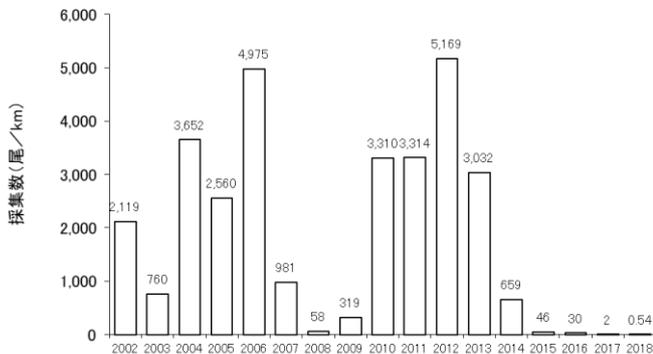


図1. 出山海域における夏眠魚採集尾数の推移

(5月下旬又は6月上旬採集 ※2015年は7月)

2 イカナゴ仔魚分布調査

2019年1月15・16日及び2月5・6日に伊勢湾全域において実施したボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査では、仔魚は採集されなかった。このことから、2019年漁期については仔魚の加入は極めて悪く、過去の仔魚採集量の結果(表1)からも、解禁を見合わせた2016年、2017年、2018年漁期と同様に低調となることが予想された。

表1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

		単位:尾/m ² ※愛知水試のデータを含む					解禁日	加入量 (億尾)
		1月上旬 伊良湖前	1月中旬 伊勢湾平均	1月下旬 全湾平均	2月上旬 伊勢湾平均	2月中旬 伊勢湾平均		
2009	H21	0	8	3	1		3月8日	44
2010	H22	643	236	216	310		3月3日	504
2011	H23	78	195	62	30		3月11日	283
2012	H24	141	118	60		25	3月8日	321
2013	H25	233	71	21	27		2月28日	302
2014	H26	815	26	70	29		3月2日	292
2015	H27	57	40	1	3		3月6日	89
2016	H28	0	0	0.07	0.04	0.05	見合わせ	-
2017	H29	0	0.02	0	0.02		見合わせ	-
2018	H30	0	0	0		0	見合わせ	-
2019	H31	0	0	0	0			-

※2017年1月下旬の全湾平均は、1月31日に愛知県が調査した三河湾と2月2-3日に三重県が調査した伊勢湾の結果を併せ1月下旬の値としています。

加入資源量の主な減少要因としては、夏眠魚調査の結果などから、親魚量不足に起因する可能性が大きいと思われる。これまでイカナゴの資源管理については翌年度親魚量20億尾をとり残す、とり残し資源量一定方針が行われているが、2018年漁期も解禁見合わせとしたものの、2018年漁期の解禁見合わせ決定時点においても、資源量が20億尾を下回っていたと考えられる。このことについては、水温の上昇により夏眠前後にイカナゴがへい死したのではないかと考えられ、今後も水温の推移と夏眠魚の生残との関連を検討していく必要がある。

なお、2019年漁期も三重県と愛知県の各漁業者代表の協議によりイカナゴ資源量は回復しておらず非常に少ないとの判断から、来漁期のための親魚を確保するために、2016年、2017年、2018年漁期に続きイカナゴ漁の解禁が見合わせとなった。